

エネルギー・環境技術で 新たな社会価値創出に貢献



2022年4月に社長COOに就任しました近藤史郎です。富士電機技報第95巻第2号発刊に当たりご挨拶申し上げます。

富士電機は、1923年の創業以来、エネルギー・環境技術の革新を追求し、産業・社会インフラの分野で、広く世の中に貢献してまいりました。

今、国際社会は、SDGs（持続可能な開発目標）の発展、脱炭素社会の実現に向けて大きく変化しています。当社は、“豊かさへの貢献”“創造への挑戦”“自然との調和”を経営理念に掲げ、エネルギー・環境事業で社会に貢献していくことを経営方針の柱に据えております。これはまさに、経済・社会・環境の統合的向上を目指すSDGsの考え方と合致するものです。さらに、昨今、エネルギーの安定的な供給を維持するエネルギーセキュリティの問題がクローズアップされる中、今後はより一層、サプライチェーン全体で環境や社会課題に向き合い、その解決に貢献する取組みが重要になってくるものと考えています。

中でも脱炭素社会の実現は、当社のエネルギー・環境事業の強みが生きる分野です。供給サイドにおけるクリーンエネルギーの主流化や分散型電源の普及、需要家サイドの省エネルギーや電化、さらには、需要家サイドがエネルギーの供給も担う時代を迎え、多様なエネルギー源における需給バランスの最適化が必要となってきます。当社は、パワーエレクトロニクス（パワエレ）とパワー半導体をコア技術とし

て徹底的に磨きつつ、これらにデジタル技術を融合することにより、リアルとサイバー、アナログとデジタルを両輪として、さまざまな産業分野のお客さまにトータルでソリューションを提供してまいります。

当社は、創立100周年を迎える2023年度を最終年度とする5か年中期経営計画“令和・Prosperity2023”において、“持続的成長企業としての基盤確立”を基本方針とし、パワエレ事業およびパワー半導体事業を成長ドライバとして、売上高1兆円、営業利益率8%以上に向け、総力を挙げて取り組んでいます。

新しい社会の潮流の中で、さまざまな変化や予想し得ない事象が発生する、という前提を持って、変化への適応力を高めていくことが最も大事であると考えています。市場ニーズに応える研究開発に一層注力するのはもちろんのこと、社内における研究開発やものづくりでのDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進することにより生産性向上を図り、エネルギーと環境のフィールドで新たな社会価値創出に挑戦してまいります。

経営理念に掲げるスローガン“熱く、高く、そして優しく”をあらゆる場面、あらゆる行動において実践しつつ、多様な個性を尊重する風土とチーム力で、エネルギー・環境事業を通じて安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

皆さまのご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 COO

近藤 史郎



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。